

発泡消毒

泡の力で消毒効果アップ！
有機繭生産にも使える！

DDAC消石灰液

効果

✓ ウイルス

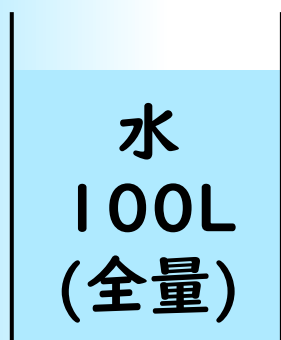
✓ カビ

✓ 細菌

作り方(100L分)

①消石灰 500gを溶かす

②DDAC 2Lを加える



+



+



ロンテクト、クリアキルなど

- ※ 前日に溶かしておくにより効果的
- ※ 有機繭生産では、有機JAS規格に適合した消石灰を使用すること

③発泡ノズルで散布

散布量はこれまでの消毒液と同じ



ポイント

- 掃除をしてから散布する
- 配蚕までにしっかり乾かす

詳細はこちらから↓

お問い合わせ

(一財)大日本蚕糸会 蚕糸科学技術研究所

TEL. 029-889-1771



D-DAC消石灰液

使用基準

【成分及び分量(本薬液100L中)】

- ・塩化ジデシルジメチルアンモニウム (80W/W) 液・・・250 g
(塩化ジデシルジメチルアンモニウムとして)・・・(200 g)
- ・アルカリ70消石灰 (水酸化カルシウム)・・・500 g

【適用条件】

- ・養蚕領域のみでの使用を厳守すること

【効能又は効果】

- ・蚕室・蚕具の消毒
- ・発泡ノズルを用いた蚕室・蚕具の発泡消毒

【本薬液100Lの調製方法】

- ・使用する当日又は前日に、本薬品に耐久性のあるポリエチレン製容器に水(水道水又は井水、約90L)を入れ、アルカリ70消石灰粉末500gを良く溶かす。散布直前に、塩化ジデシルジメチルアンモニウム製剤(ロンテクト、クリアキル-100等)2Lを加え、最後に水を足して全量を100Lとする。

【散布方法】

- ・動力噴霧機に発泡ノズル(M型フォームノズル,丸山製作所コードNo.934077)を装着し、使用圧力3~5Mpa(30~50kgf/cm²)の範囲で使用する。
- ・蚕室の床・壁面等の被消毒面が均一に泡で覆われるよう丁寧に散布し、泡の保持時間が床等の水平面で30分程度、壁等垂直面で1~2分程度以上となるように被消毒面に泡を付着させる。

【散布終了後の取り扱い】

- ・動力噴霧機と発泡ノズルの内部に本薬液が残っていると故障の原因となるため、速やかに動力噴霧機と発泡ノズルの内部を水で通水し、良くすすぐ。

【使用上の注意】

1 基本的な注意事項

- ・本薬液は、効能・効果において定められた目的のみに使用し、用法・用量を厳守すること。
- ・散布または噴霧中には、薬液を吸い込んだり直接触れないよう、マスク、メガネ、ゴム手袋、長靴等の保護具を必ず着用すること。
- ・本薬液が皮膚、眼、被服、飲食物、桑葉、小児の玩具等に直接かからないよう注意すること。
- ・本薬液は、使用濃度が高く、強アルカリ性の薬液であるため、取扱いには十分に注意すること。

2 カイコに関する注意事項

- ・カイコの幼虫に経口毒性があるため、本薬液が桑葉に付着しないように注意すること。
- ・カイコの幼虫に本薬液を散布しないこと。

3 取扱い及び廃棄のための注意事項

- ・本薬液は、時間の経過とともに大気中の炭酸ガスを吸収してアルカリ性が弱まるため、調整後は速やかに使い切ること。
- ・アルカリ70消石灰は、開封後は速やかに使用すること。
- ・期限を過ぎた塩化ジデシルジメチルアンモニウム製剤を使用しないこと。
- ・発泡消毒を行う前に、蚕室内の蚕糞・蚕沙などは除去すること。
- ・本薬液を他の消毒剤、殺虫剤、薬品類と混用しないこと。
- ・大量の本薬液が、活性汚泥法による污水处理施設等に流入しないように注意すること。
- ・本薬液が魚類の生息する河川や、水田等に直接流入しないように注意すること。
- ・本薬液の調製後又は散布中に、小児が液に触ったり、液がかからないように注意すること。
- ・使い残した本薬液は、上記の注意点を守り、安全に処理すること。
- ・塩化ジデシルジメチルアンモニウム製剤およびアルカリ70消石灰の廃棄については、各製品の使用上の注意と地方公共団体条例等に従い処分すること。

4 使用に際して気を付けること

- ・本薬液を誤飲した場合は、本使用基準の写しを示し、速やかに医師の指示と処置を受けること。
- ・本薬液が皮膚に付着した場合には、水でよく洗うこと。万一、眼に入った場合には多量の水で洗ったのち、速やかに医師の処置を受けること。
- ・発赤、かゆみ等の過敏症状が現れた場合には、直ちに使用を中止すること。